

「女性の活躍推進に関する世論調査」の概要

平成26年11月
内閣府政府広報室

調査対象	全国20歳以上の日本国籍を有する者 5,000人 有効回収数 3,037人（回収率60.7%）
調査時期	平成26年8月28日～9月14日（調査員による個別面接聴取）
調査目的	女性の活躍推進に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
調査項目	女性の活躍推進に関する意識
関連調査	「男女共同参画社会に関する世論調査」 平成24年10月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,033人） 平成21年10月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,240人） 平成19年8月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,118人） 平成16年11月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,502人） 平成14年7月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,561人） 平成12年2月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,378人） 平成9年9月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,574人） 「男女共同参画に関する世論調査」 平成7年7月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,459人） 「男女平等に関する世論調査」 平成4年11月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,524人）

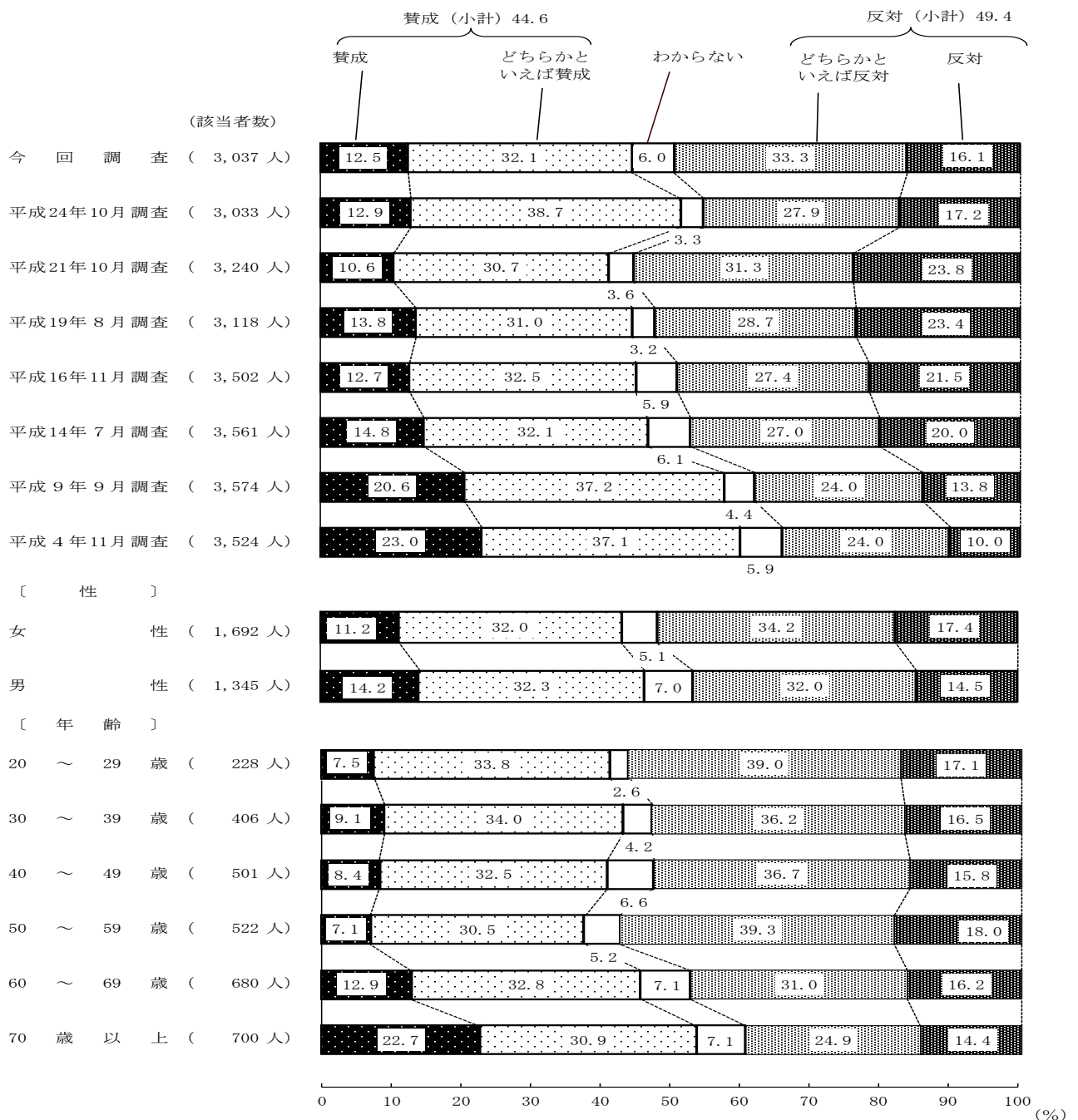
（平成18年度の調査から、調査対象者に調査主体が「内閣府」であることを提示した上で実施。）

※ 本資料では、過去の調査結果との比較において、統計学的に有意差（信頼度95%）が認められる回答については、「（増）」または「（減）」と記載している。

1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に対する意識

問1 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうかお考えですか。この中から1つだけお答えください。

	平成 24 年 10 月	平成 26 年 8 月
・賛成 (小計)	51.6%	44.6% (減)
・賛成	12.9%	12.5%
・どちらかといえば賛成	38.7%	32.1% (減)
・反対 (小計)	45.1%	49.4% (増)
・どちらかといえば反対	27.9%	33.3% (増)
・反対	17.2%	16.1%



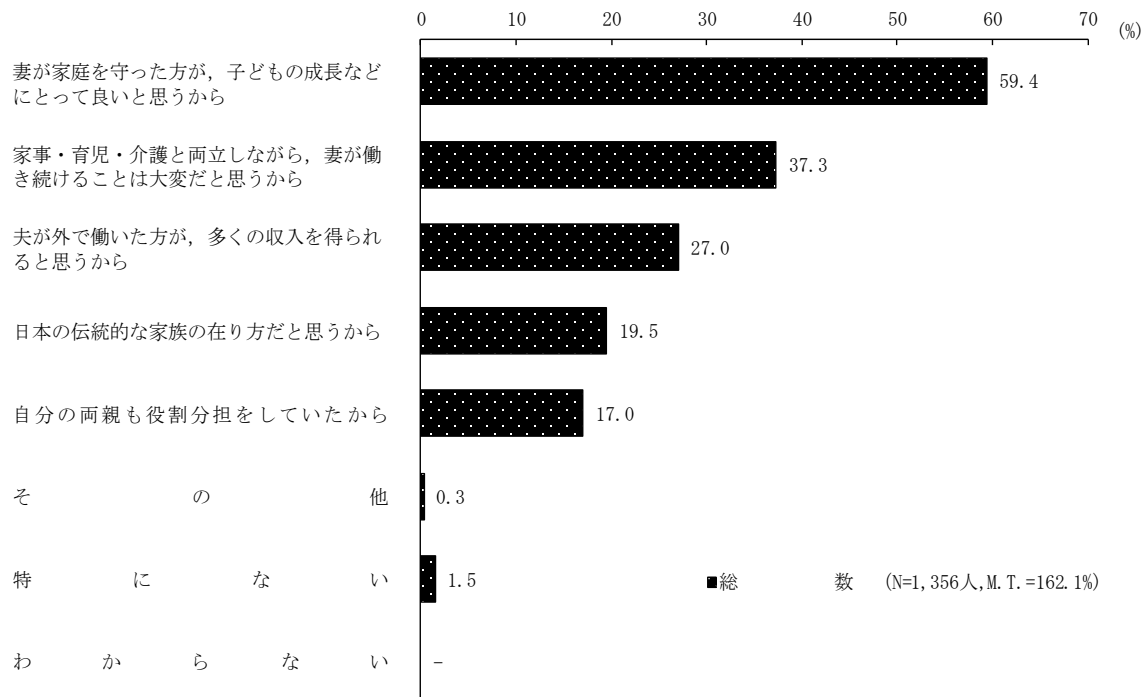
ア 賛成とする理由

更問 1 (問 1 で「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた方 (1,356 人) に)
それはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位 3 項目)
平成 26 年 8 月

- ・妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いと思うから 59.4%
- ・家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから 37.3%
- ・夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから 27.0%

〔「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた者に、複数回答〕



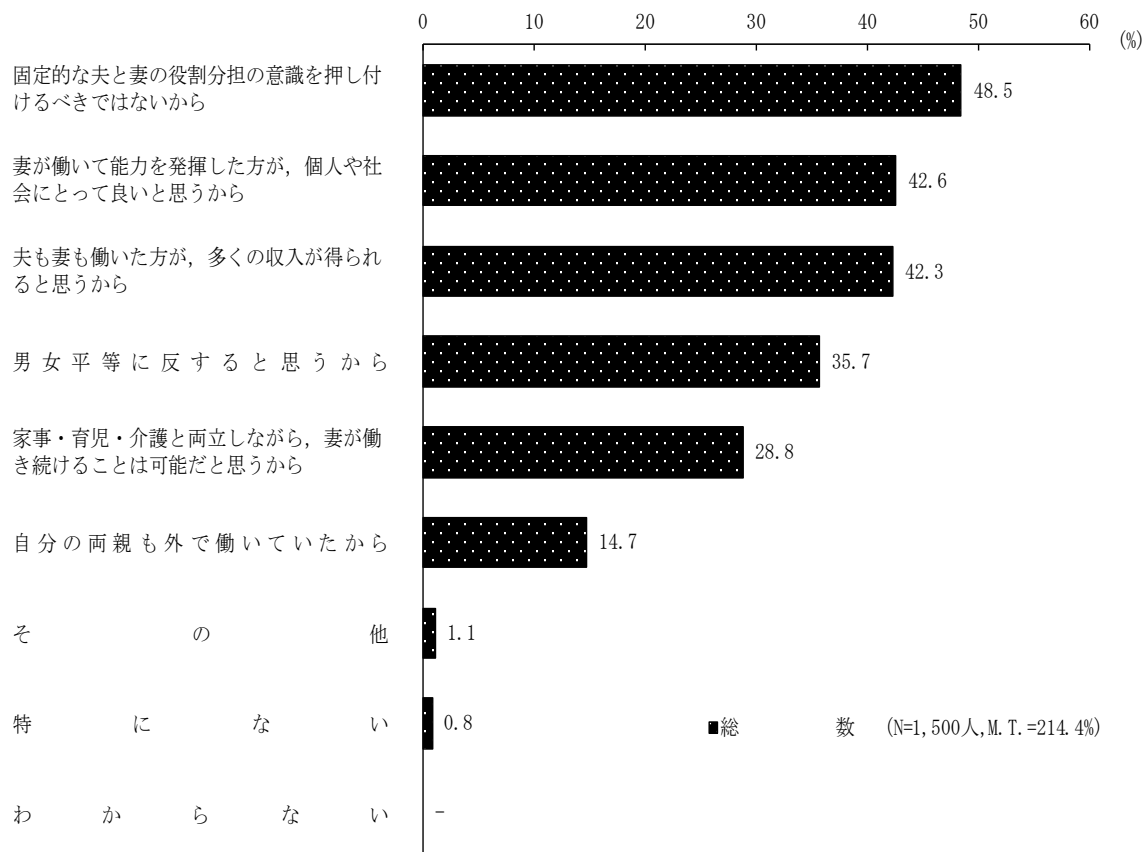
イ 反対とする理由

更問2（問1で「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた方（1,500人）に）
それはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

（上位4項目）
平成26年8月

- ・ 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押し付けるべきではないから 48.5%
- ・ 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから 42.6%
- ・ 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから 42.3%
- ・ 男女平等に反すると思うから 35.7%

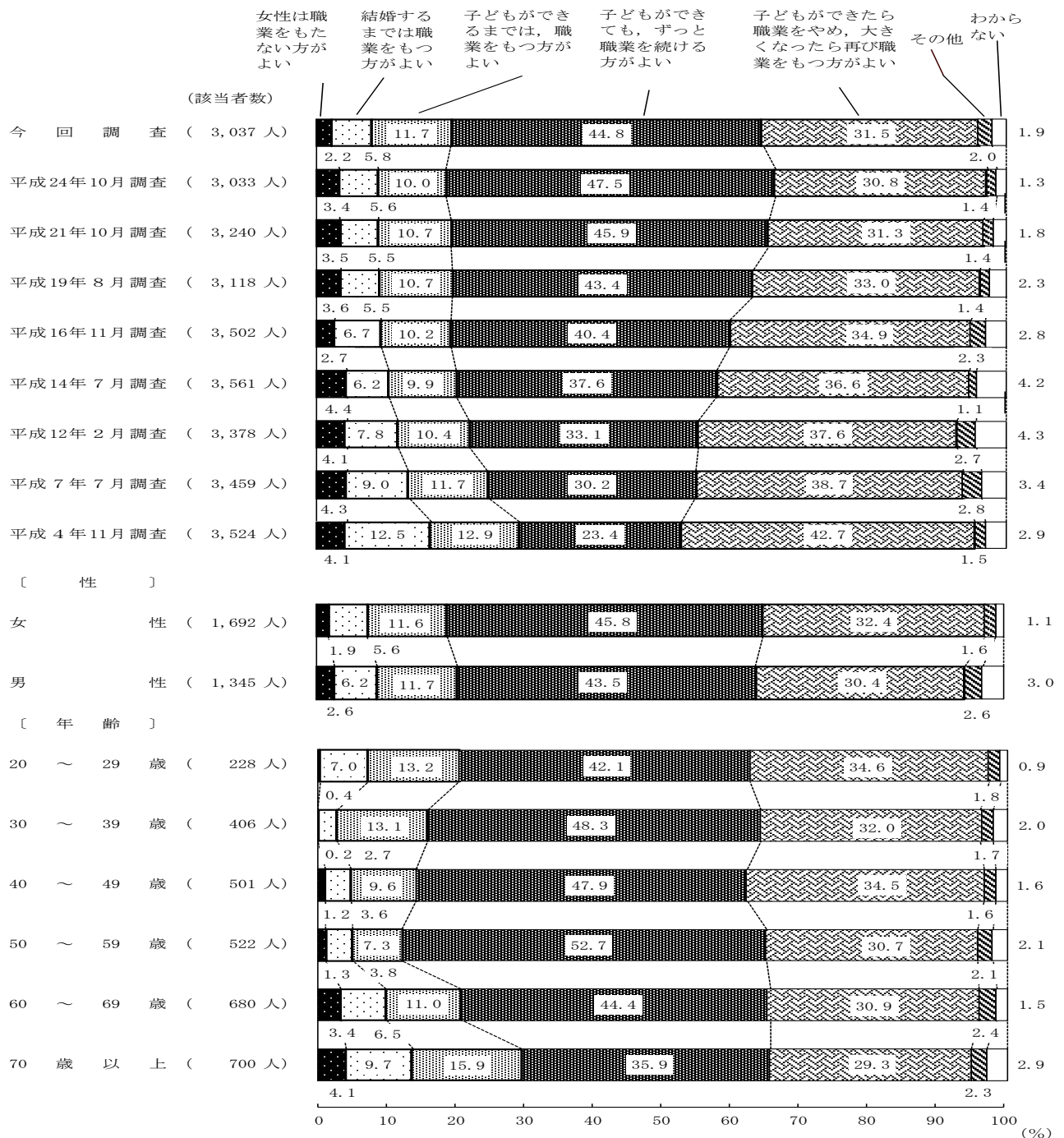
〔「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた者に、複数回答〕



2 女性が職業をもつことに対する意識

問2 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどのようにお考えですか。この中から1つだけお答えください。

	平成 24 年 10 月	→	平成 26 年 8 月
・女性は職業をもたない方がよい	3.4%		2.2% (減)
・結婚するまでは職業をもつ方がよい	5.6%		5.8%
・子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	10.0%		11.7% (増)
・子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	47.5%		44.8% (減)
・子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	30.8%		31.5%



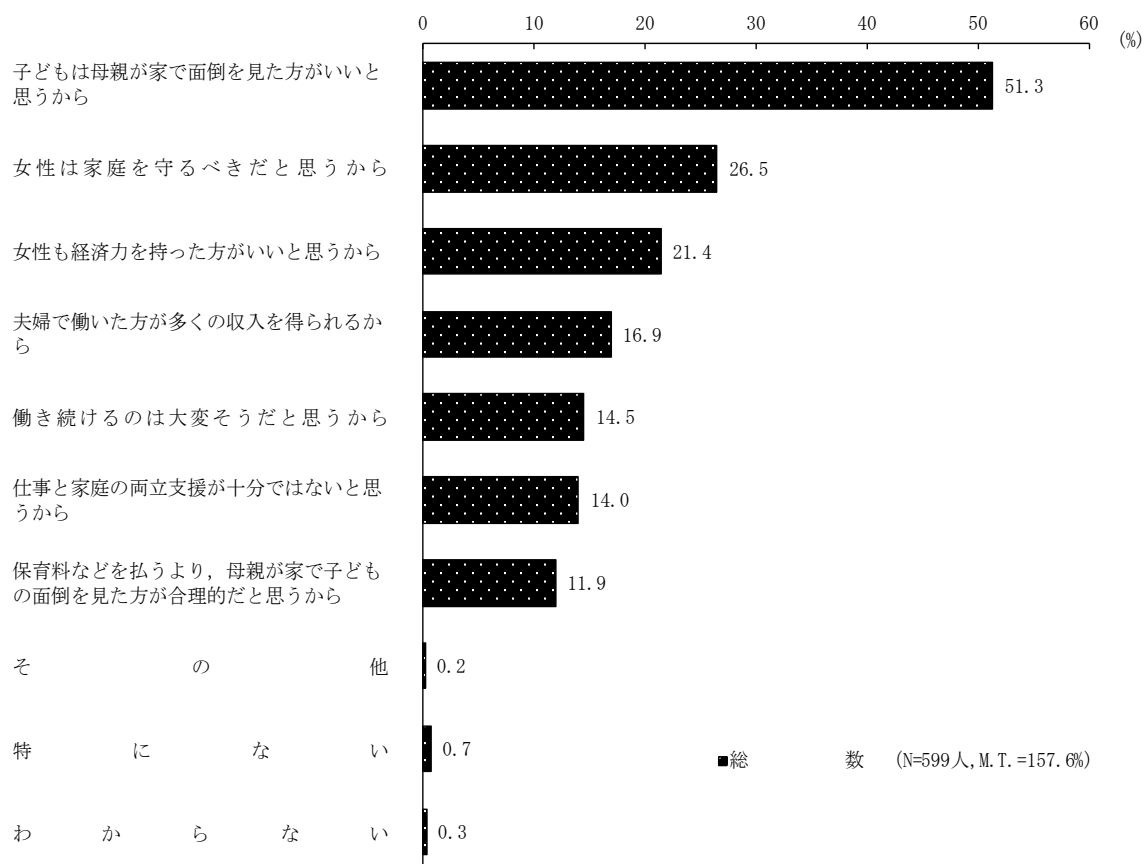
ア 女性は職業をもたない方がよいとする理由

更問 1 (問 2 で「女性は職業をもたない方がよい」、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と答えた方 (599 人) に)
それはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(7 項目)
平成 26 年 8 月

・子どもは母親が家で面倒を見た方がいいと思うから	51.3%
・女性は家庭を守るべきだと思うから	26.5%
・女性も経済力を持った方がいいと思うから	21.4%
・夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから	16.9%
・働き続けるのは大変そうだと思うから	14.5%
・仕事と家庭の両立支援が十分ではないと思うから	14.0%
・保育料などを払うより、母親が家で子どもの面倒を見た方が合理的だと思うから	11.9%

女性が職業をもつことについて「女性は職業をもたない方がよい」、「結婚するまでは職業をもつ方がよい」、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」と答えた者に、複数回答



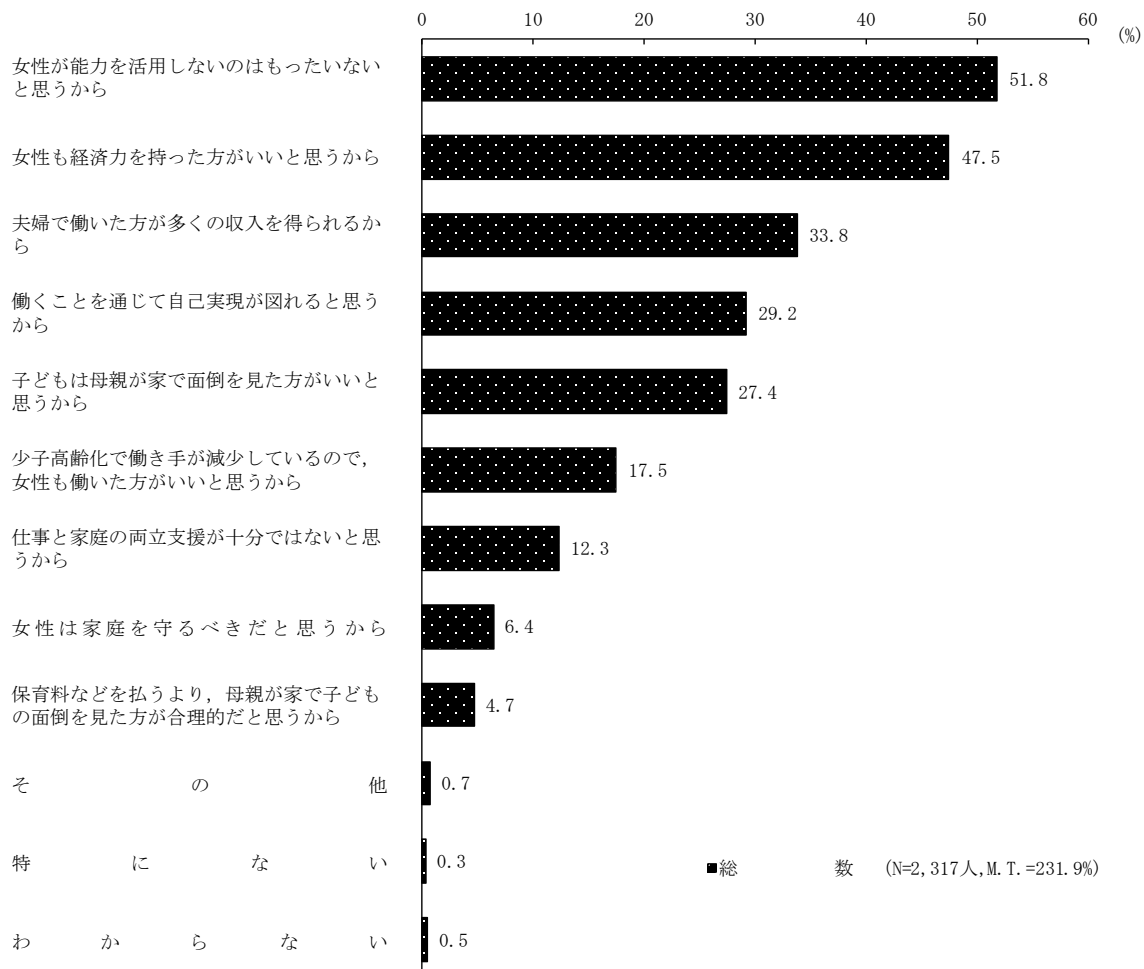
イ 女性は職業をもった方がよいとする理由

更問2（問2で「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた方（2,317人）にそれはなぜですか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）

（上位5項目）
平成26年8月

- ・女性が能力を活用しないのはもったいないと思うから 51.8%
- ・女性も経済力を持った方がよいと思うから 47.5%
- ・夫婦で働いた方が多くの収入を得られるから 33.8%
- ・働くことを通じて自己実現が図れると思うから 29.2%
- ・子どもは母親が家で面倒を見た方がよいと思うから 27.4%

女性が職業をもつことについて「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と答えた者に、複数回答



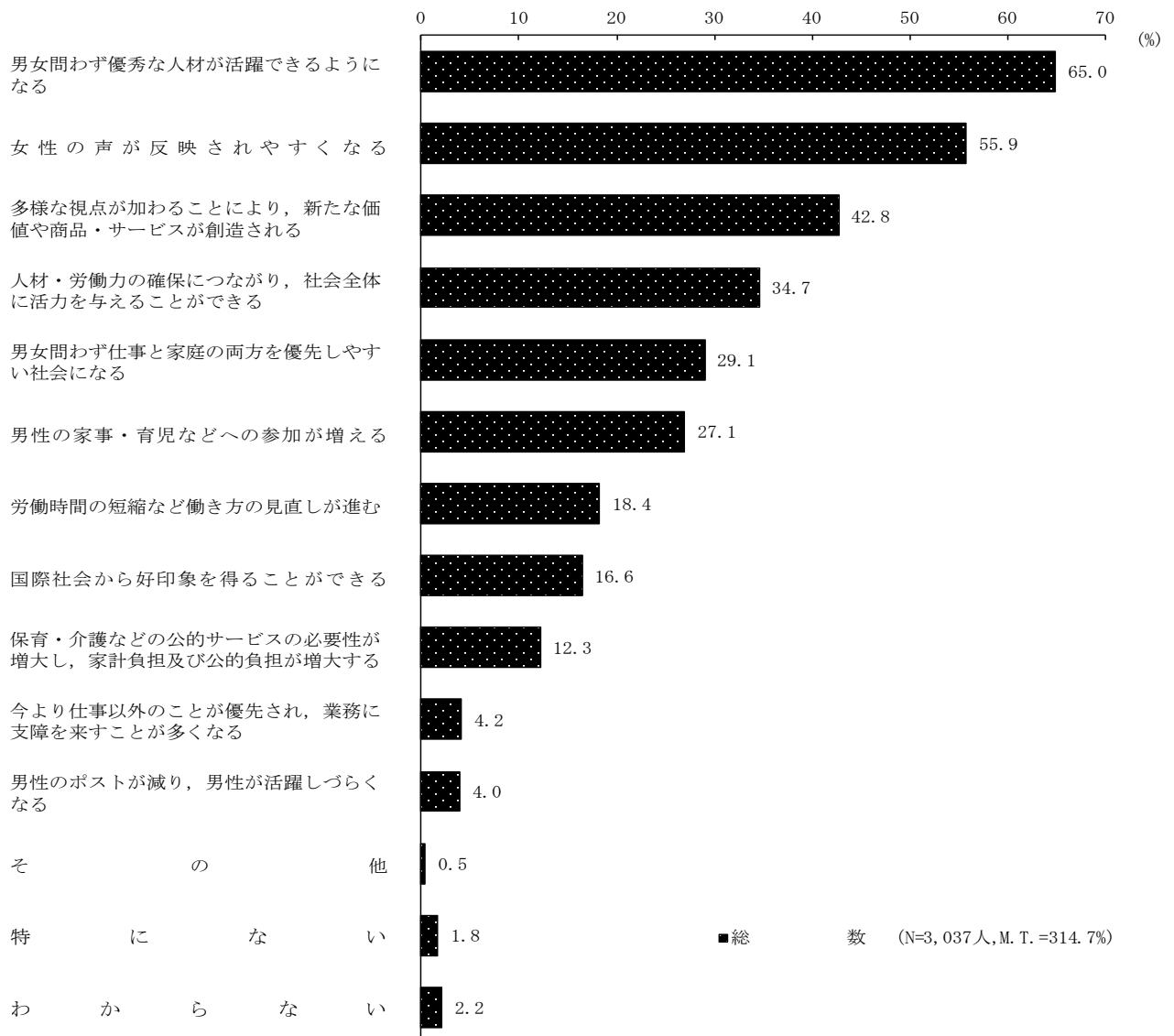
3 女性の活躍が進んだ時の社会・組織等の姿

問3 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。この中からいくつでもあげてください。
(複数回答)

(上位4項目)
平成26年8月

- ・男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる 65.0%
- ・女性の声が反映されやすくなる 55.9%
- ・多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される 42.8%
- ・人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる 34.7%

(複数回答)



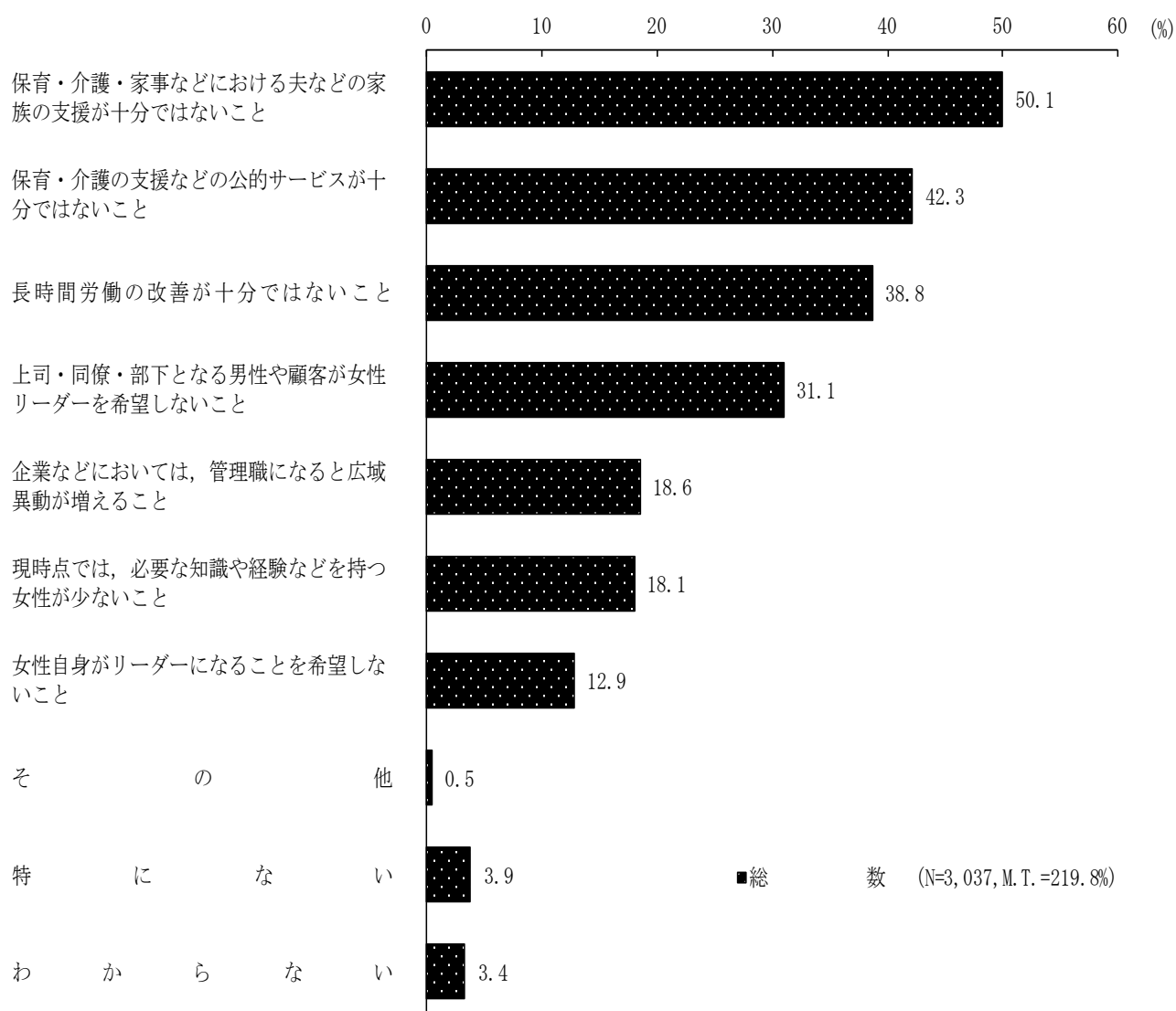
4 女性の活躍を進めるに際しての障害

問4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思えますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)
平成26年8月

- ・保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと 50.1%
- ・保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと 42.3%
- ・長時間労働の改善が十分ではないこと 38.8%
- ・上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと 31.1%

(複数回答)

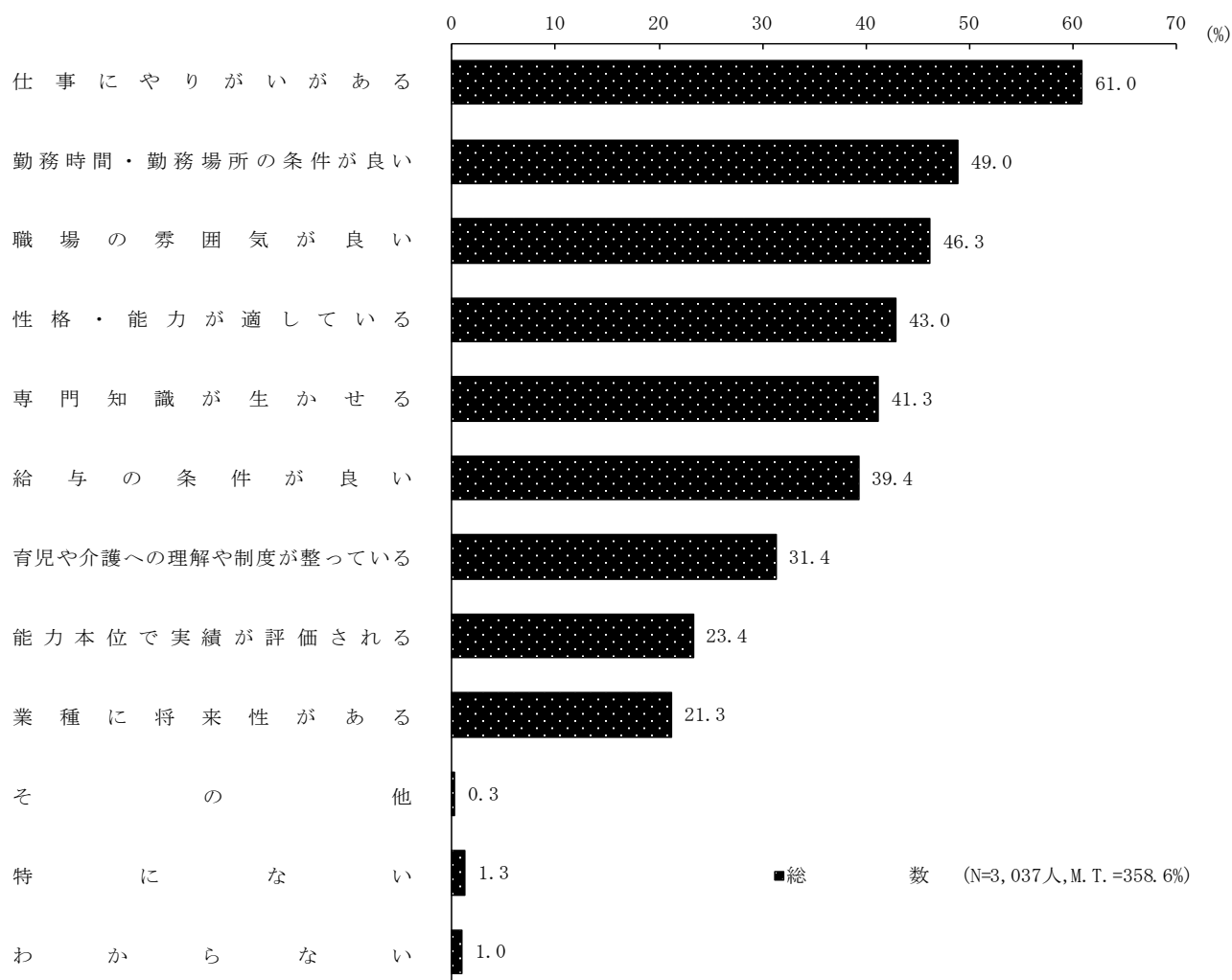


5 仕事を選んだ（選ぶ）理由

問5 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。この中からいくつかもあげてください。（複数回答）

（上位6項目）	
平成26年8月	
・仕事にやりがいがある	61.0%
・勤務時間・勤務場所の条件が良い	49.0%
・職場の雰囲気が良い	46.3%
・性格・能力が適している	43.0%
・専門知識が活かせる	41.3%
・給与の条件が良い	39.4%

（複数回答）



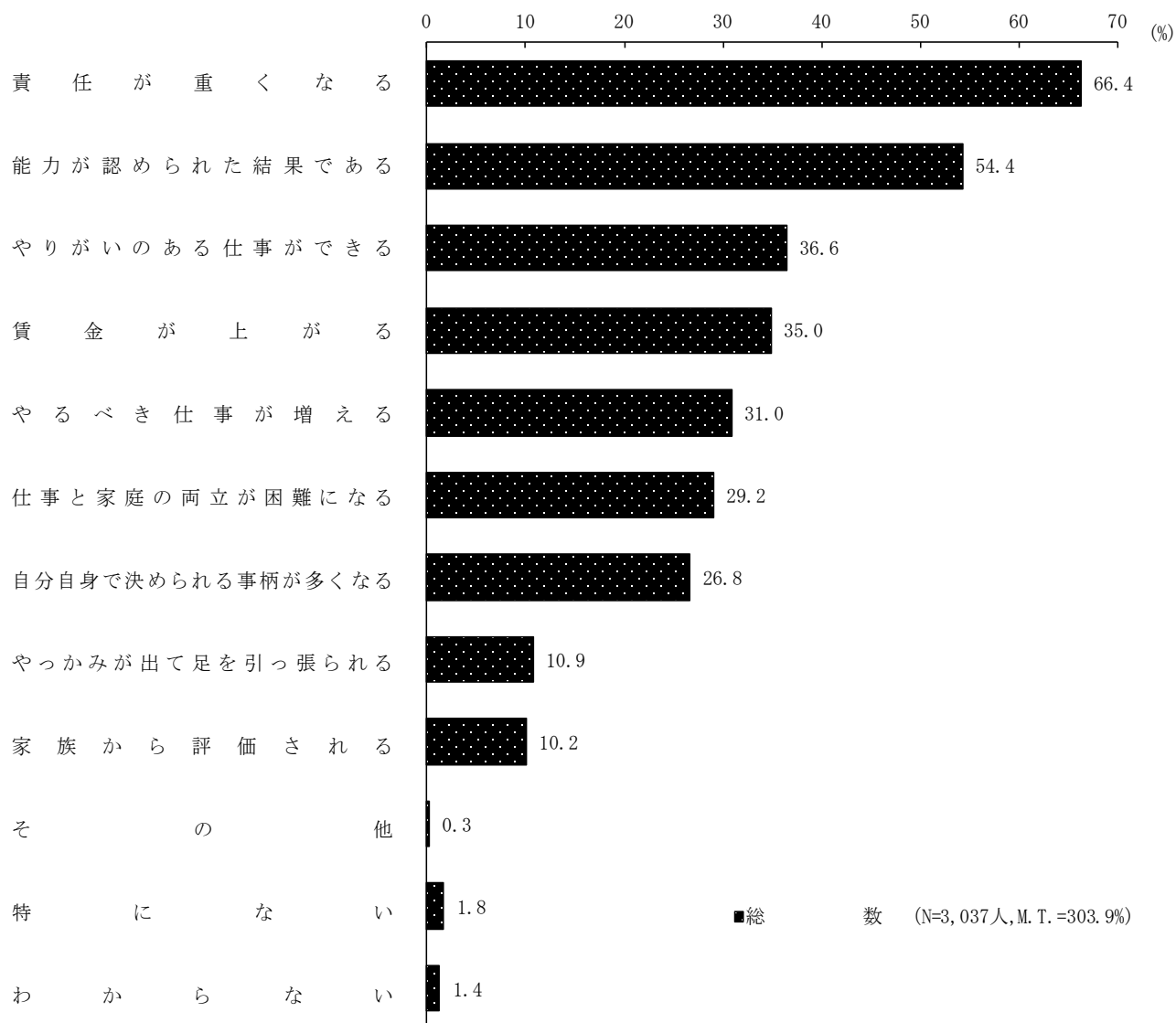
6 昇進に対するイメージ

問6 あなたは、管理職以上に昇進することについてどのようなイメージを持っていますか。
この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)
平成26年8月
66.4%
54.4%
36.6%
35.0%

- ・責任が重くなる
- ・能力が認められた結果である
- ・やりがいのある仕事ができる
- ・賃金が上がる

(複数回答)



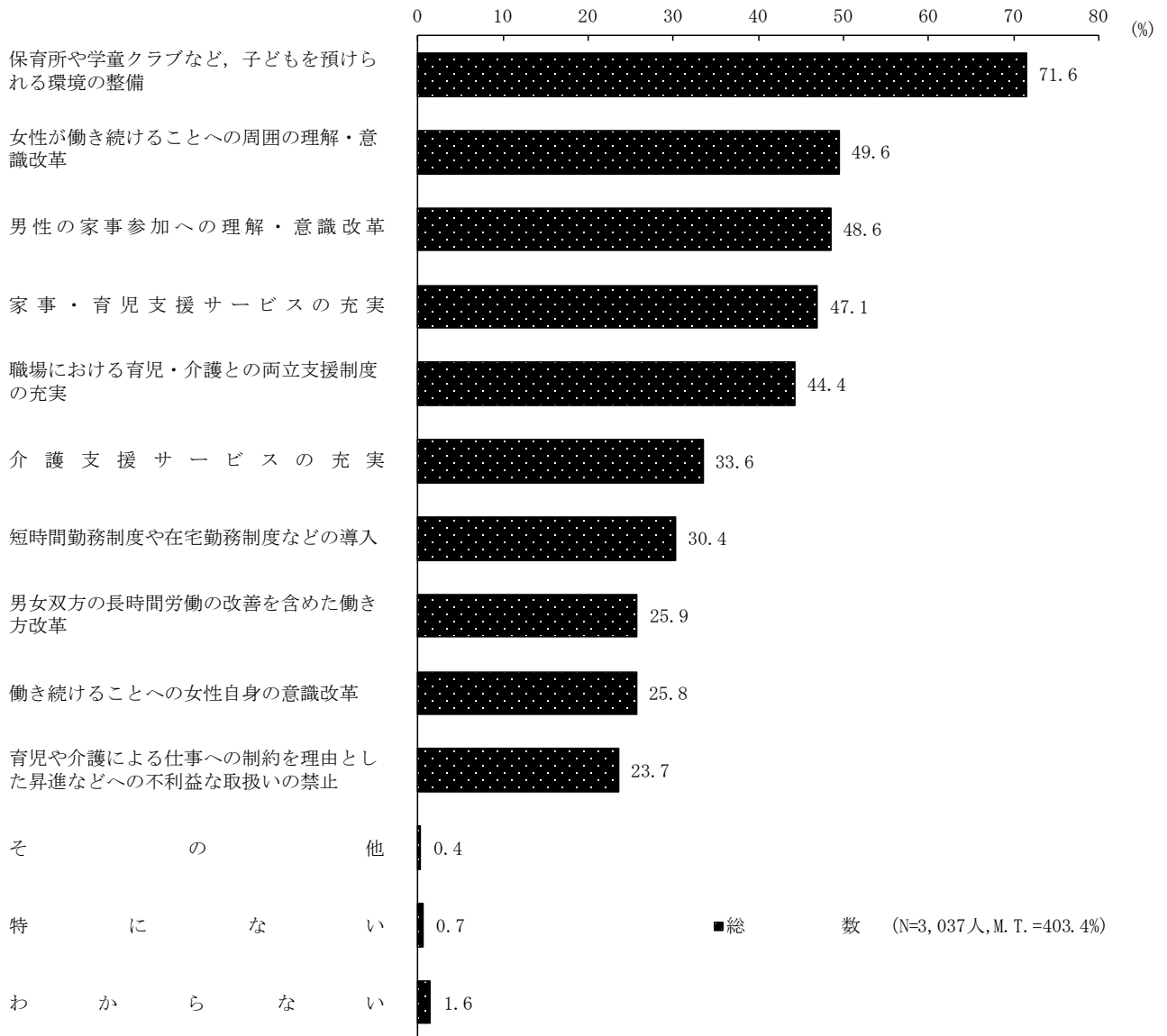
7 女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことに関する意識

問7 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。この中からいくつでもあげてください。
(複数回答)

(上位5項目)
平成26年8月

- ・ 保育所や学童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備 71.6%
- ・ 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革 49.6%
- ・ 男性の家事参加への理解・意識改革 48.6%
- ・ 家事・育児支援サービスの充実 47.1%
- ・ 職場における育児・介護との両立支援制度の充実 44.4%

(複数回答)



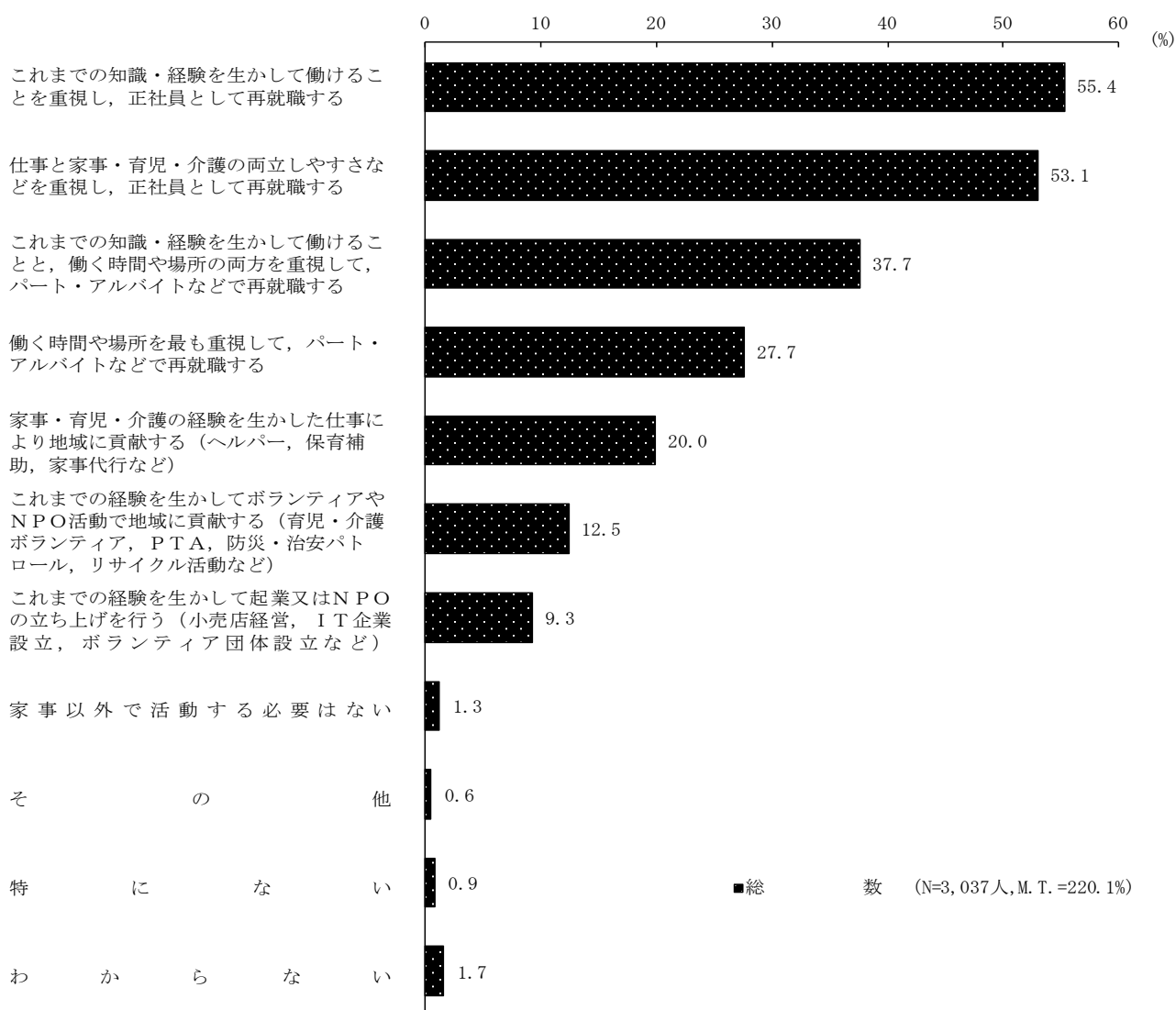
8 出産等で離職した女性が、再び家事以外で活躍する仕方

問 8 出産などでいったん離職した女性が、再び社会で活動する仕方として、あなたがいいと思うものは何ですか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位 4 項目)
平成 26 年 8 月

- ・これまでの知識・経験を生かして働けることを重視し、正社員として再就職する 55.4%
- ・仕事と家事・育児・介護の両立しやすさを重視し、正社員として再就職する 53.1%
- ・これまでの知識・経験を生かして働けることと、働く時間や場所の両方を重視して、パート・アルバイトなどで再就職する 37.7%
- ・働く時間や場所を最も重視して、パート・アルバイトなどで再就職する 27.7%

(複数回答)



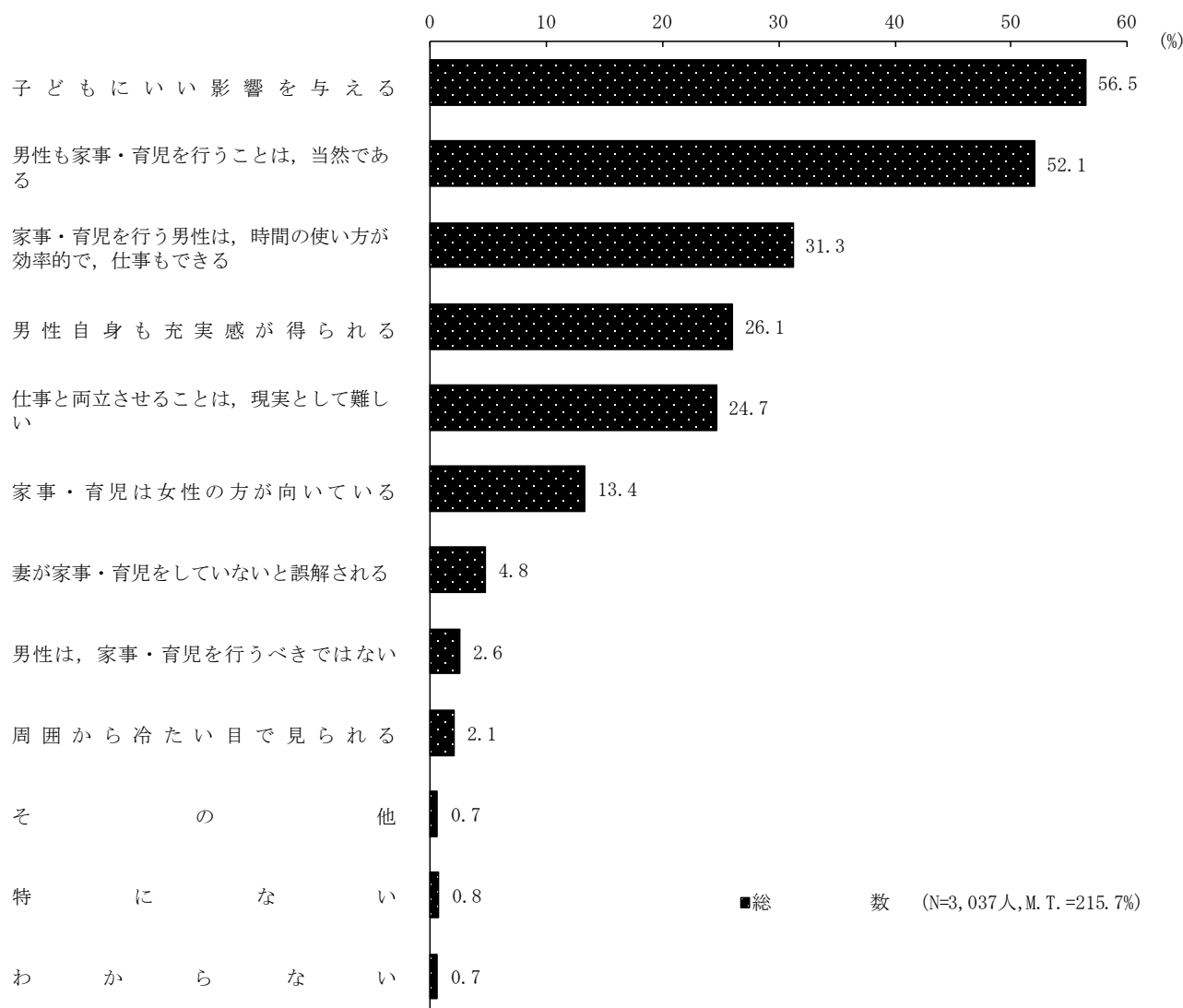
9 男性が家事・育児を行うことについてのイメージ

問9 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位5項目)
平成26年8月

- ・子どもにいい影響を与える 56.5%
- ・男性も家事・育児を行うことは、当然である 52.1%
- ・家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる 31.3%
- ・男性自身も充実感が得られる 26.1%
- ・仕事と両立させることは、現実として難しい 24.7%

(複数回答)



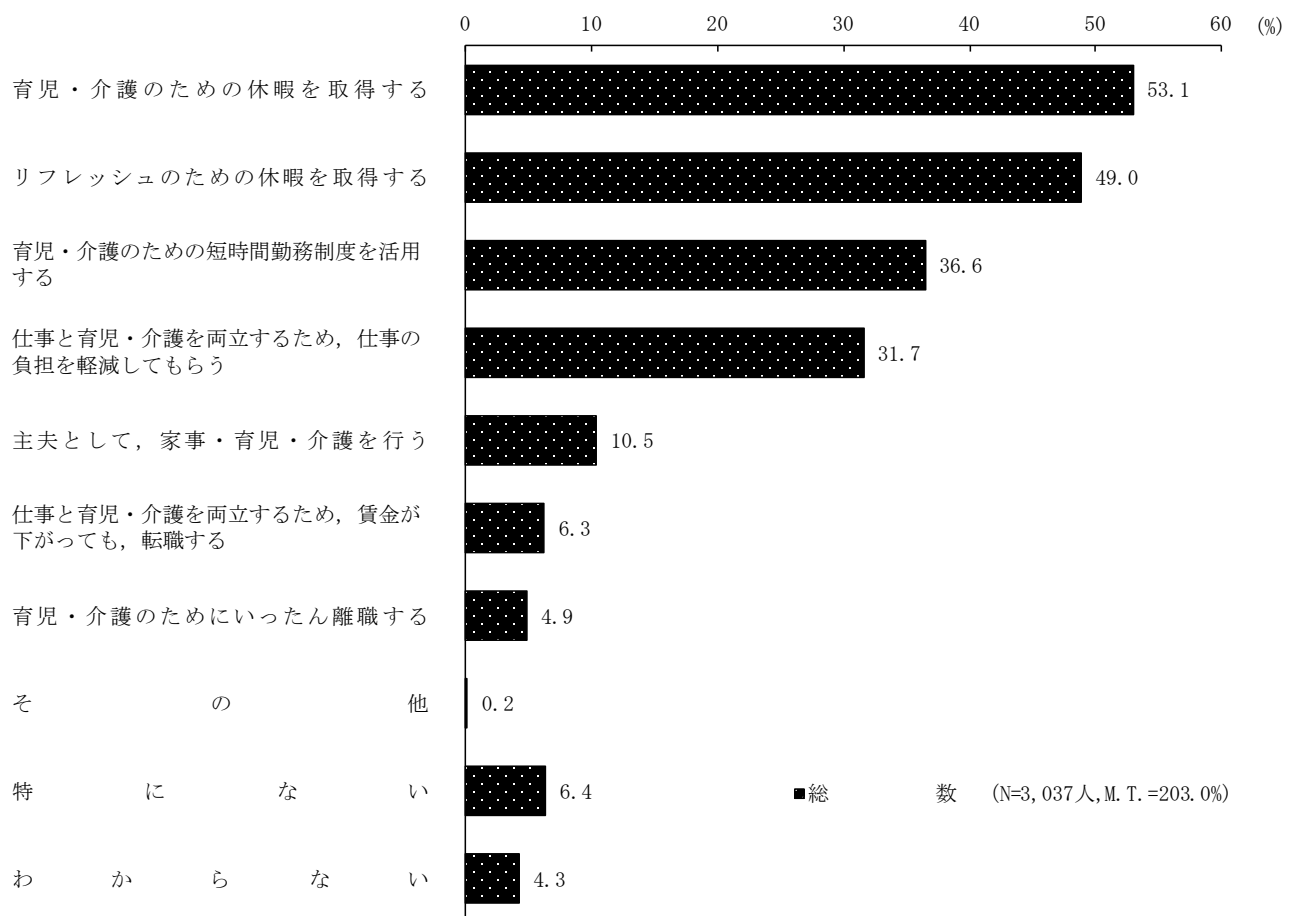
10 男性の柔軟な働き方についての意識

問10 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位4項目)
平成26年8月

- ・育児・介護のための休暇を取得する 53.1%
- ・リフレッシュのための休暇を取得する 49.0%
- ・育児・介護のための短時間勤務制度を活用する 36.6%
- ・仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう 31.7%

(複数回答)



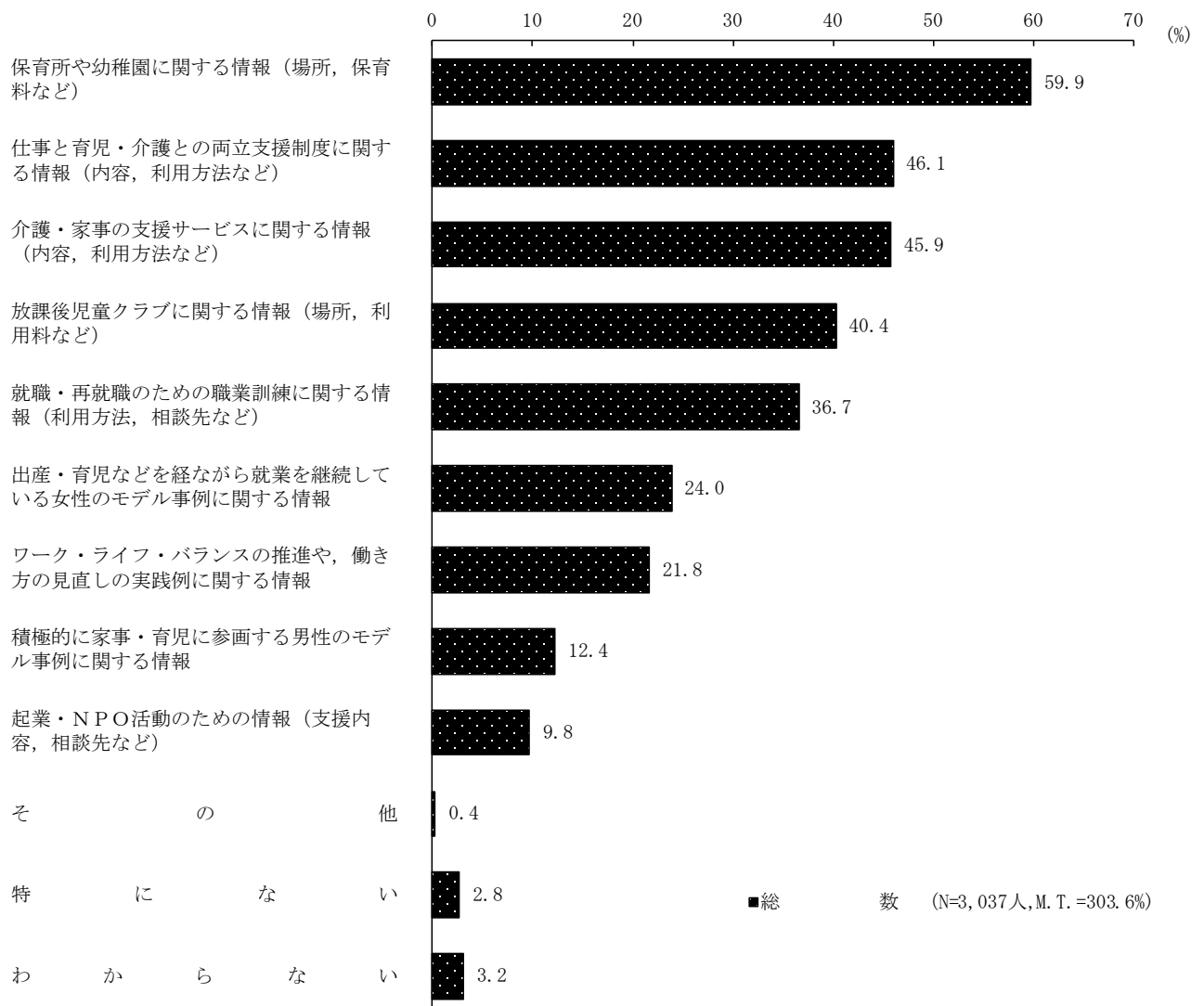
1.1 女性の活躍推進に関する情報のうち、特に必要な情報

問 1.1 あなたは、女性の活躍推進の取組に関する情報のうち、どの情報が特に必要になると感じますか。この中からいくつでもあげてください。(複数回答)

(上位 4 項目)
平成 26 年 8 月

- ・ 保育所や幼稚園に関する情報（場所、保育料など） 59.9%
- ・ 仕事と育児・介護との両立支援制度に関する情報（内容、利用方法など） 46.1%
- ・ 介護・家事の支援サービスに関する情報（内容、利用方法など） 45.9%
- ・ 放課後児童クラブに関する情報（場所、利用料など） 40.4%

(複数回答)



ア 必要な情報を入手する際に利用したい媒体

更問 1（問 1 1 で特に必要な情報を答えた方（2,856 人）に）
 あなたが選んだ情報を入手する際、どの媒体を特に利用したいと思いますか。この中
 からいくつでもあげてください。（複数回答）

（上位 4 項目）
 平成 26 年 8 月

- ・新聞、雑誌 60.6%
- ・テレビ、ラジオ 57.1%
- ・パソコン（ホームページなど） 44.3%
- ・政府や地方自治体が発行する広報誌 35.3%

